

第44回「地方の時代」映像祭で 「揺らぐ地方自治～辺野古移設が問うもの～」が放送局部門で選奨受賞



第44回「地方の時代」映像祭の贈賞式が11月9日(土)、大阪府で開かれ、琉球放送株式会社(代表:中村一彦)が制作したドキュメンタリー番組「揺らぐ地方自治～辺野古移設が問うもの～」が放送局部門で選奨を受賞しました。

受賞作品

■「揺らぐ地方自治～辺野古移設が問うもの～」(2023年12月29日放送/50分)

<あらすじ>

普天間基地の移設問題は、国の代執行という形で山場を迎えた。国が自ら申請し、自ら承認することを可能にする代執行は基地が集中する沖縄にあっては自治が機能しないことに等しい。埋め立ての賛否を問う県民投票では、投票総数の7割以上が反対した。また、玉城知事は辺野古への移設「反対」を掲げ再選した。このように民意は示され続けている。民意の背景には、沖縄戦の記憶やそれに続く過重な基地負担、環境破壊への抵抗などがある。しかし、沖縄が何度反対の“民意”を示しても、政府はその姿勢を変えることはない。沖縄の自治と民意の姿からこの国のあり方を問う。

受賞の言葉

「このような賞をいただけたことを大変うれしく思います。作品を通じて一人でも多くの方がこの島で起きている現状について知り、日本の民主主義の在り方を考えるきっかけになれば幸いです」(平良優果ディレクター)

「本土から見れば沖縄で起きている問題は小さなことかもしれませんが、その一つ一つを伝えていくこと、声をあげ続けることの大切さを改めて感じました。これからも沖縄の声に耳を傾け、発信していきたいです」(猪俣迪人カメラマン)

「地方の時代」映像祭について

NHK や日本民間放送連盟、日本ケーブルテレビ連盟、開催地の自治体などが主催して 1980 年から開催されている映像祭。毎年、地方の課題をテーマに全国の放送局などが制作した映像作品を表彰している。「放送局部門」「ケーブルテレビ部門」「市民・学生・自治体部門」「高校生(中学生)部門」の4部門があり、今年は計 320 作品の応募があり、38 作品が入賞した。



【写真説明:贈賞式に臨む平良優果ディレクターと猪俣迪人カメラマン/番組の一場面】

<本件に関するお問い合わせ先>
琉球放送株式会社 広報室 TEL:098-860-2078

E-MAIL: pr@rbc.co.jp